

保育計画成果報告書

法人名等	学校法人松山東雲学園
施設名	松山しなのめ学園附属保育園
報告者（役職）	仙波 美加子（副園長）
住所・連絡先	愛媛県松山市桑原3丁目2-1
	☎ 089-913-1103
	E-mail mikako@shinonome.ac.jp

○タイトル（保育計画）

保育士との愛着を築き、好きなことを見つけ、心と体を動かしてたっぷり遊ぶ。

○主な助成備品

絵本・紙芝居・紙芝居舞台・ままごとセット・木製汽車セット・砂場セット・戸外用四輪車・砂場用トロッコ・砂場の遊具入れ(ワゴン)・室内用木製乗り物・タオル掛け

1. 保育計画策定の目的

本園は2018年9月1日に企業主導型保育園として開園しました。キャンパスの敷地内には、松山東雲女子大学、同短期大学、附属幼稚園、子育て支援広場「たんぼぼ」が設置されています。子どもたち一人ひとりの持っている個性を大切に、子どもたちが興味を持ったものや人にかかわり、試したり、考えたり、その年齢なりに工夫したりする遊びを通して、自ら成長する力を支えていきたいと思っています。この保育の考え方は、創立50年を迎えた附属幼稚園で長年実践されてきました。私たちの保育園もその保育を引き継ぎ、0歳児～2歳児の遊びの充実を図りたいと考えました。保育者との信頼関係のなかで次第に他児に気づき、興味を持ち他児とかかわる中で、かかわり方ややり取りなどが育っていきます。こうした社会性やコミュニケーションも大切にしたい育ちです。遊具や絵本が子どもたちのこうした育ちを助けるものと考え、開園以来少しずつ整えてきました。今回助成をいただいたのも、こうした考えに基づくものです。さらに、戸外での遊びや経験を広げたいと思い、園庭で使用する四輪車や砂場用トロッコ等の整備を計画しました。土や砂、水に十分触れ、体を存分に使って遊び、五感を通して様々な経験をして欲しいと願います。

2. 具体的な実施内容

<絵本・紙芝居・紙芝居舞台>

開園当初から絵本は子どもたちにとってとても大切なものと位置付け、少しずつ増やしてきました。0歳児の子どもたちは『がたんごとん がたんごとん』のシリーズや『あーんあーん』など、同じ絵本を何度も開いたり、読んで欲しいと保育者のところに持ってきてたりする姿も見られています。2歳児の子どもが、何度も読んでもらった『サンドイッチ サンドイッチ』や『めんめんばあ』などの絵本を、友だちと一緒に開き、片言混じりにまるで読んでいるかのようにして遊ぶ姿も見られました。絵本が増えたことでそれぞれのお気に入りの絵本が増えたように感じます。何度も開いて見たり、読んでもらったりする子どもたちです。お昼寝前にも、毎日気に入った絵本を選んで読んでもらっています。集まって見る紙芝居も大喜びです。また、3歳になるころには『ぐりとぐら』や『はらぺこあおむし』『おおきなかぶ』など簡単なお話の絵本を喜ぶ姿がみられるようになりました。日々様々な絵本に触れてきたからこそ、絵本に興味を持ち、開いて見たり読んでもらったりする中で、次第に絵本の楽しさや物語の世界のおもしろさを知っていくのだと感じました。



<ままごとセット・汽車セット>



0歳児クラスの子どもたちが、お皿に入れた木製のリンゴやバナナを保育者に持っていく姿が見られます。1、2歳児の子どもたちもお鍋やボウルに入れてかき混ぜたり、お弁当箱に詰めたりします。少ない数を取り合う姿がありましたが、今回いただき数を増やすと、同じ物を一緒に使って遊ぶ姿が増えてきました。それぞれがお弁当箱に詰めたり袋に入れたりして“おでかけ”です。友だちと“おんなじ”が嬉しいようです。こうした“おんなじ”を喜び共にしていくことで、友だちといっしょにいる喜びも感じているようです。3歳が近くなると、持ち歩くことからお母さんごっこのような遊びが見られるようになりました。「これ赤ちゃんのね」「〇〇ちゃんも食べていいよ」「これはカレーです」など、やりとりが育っていることを嬉しく感じます。



自動車セットでは、保育者につなげてもらった線路の上に車を走らせて喜ぶ姿や、線路を長くつなげることがおもしろい様子、友だちがしているところに入っていっしょに遊ぶ姿などがありました。自動車や線路を取り合っただけでいざこざが起こることもありますが、それも大事な経験でしょう。やがて、子どもたちだけでいろいろな線路をつなげ、車を走らせる2、3歳の子どもたちの姿が見られるようになりました。一人でじっくり遊ぶにも、友だちといっしょに遊ぶにもいいようです。



<戸外の遊具>

園庭では、土や砂、水を使って遊ぶ機会が増えました。バケツや型押しのカップ、スコップなど、子どもたちが喜んで遊んでいます。なかには友だちの持っているものがおもしろそうに見えるようで思わずとってしまう子どももいます。同じものがいくつもあることで、そうしたいざこざが解決します。もちろん我慢したり順番に使ったりすることも必要な経験でしょう。その前にしたいことが存分にできる喜びを味わって欲しいと思います。砂で遊ぶおもしろさを味わっていくうち、砂を触ることに抵抗があった子どもたちも、次第に汚れても気にせず両手でしっかり砂を掴み遊ぶようになりました。



型押しは砂を入れる加減やひっくり返す速さ、タイミング、型を外す力加減など、さまざまな条件がそろって初めてきれいな形になります。何度も壊れてはやり直し、時には怒ったり泣いたりしながらも再び挑戦です。きれいな形になった時は大喜びでした。こうして何日も繰り返して作り方や加減を学んでいったようです。砂をトロッコに入れたり、バケツに入れて四輪車に乗って運んだりする

姿も見られ、子どもたちがいろいろ考えたり試したりする姿を頼もしく見守っています。砂場道具の整理ワゴンは、子どもたちの遊具の出し入れや片づけを支えています。自然に分類して入れる姿や、友だちとかごを運んで片づける姿は嬉しいことです。

<室内用の木製乗り物>

お昼寝から早く目覚めたときや、なかなか眠れないとき、また雨の日などちょっと体を動かして遊びたいときに、乗り物に乗って遊ぶことも選択に加わりました。その子どものペースでじっくり遊んで満足するようです。体も心も動かして遊び、溜まっているエネルギーも発散します。足で蹴って進むことが難しかった子どもも、遊んでいるうちにバランスよく足で蹴って進むようになりました。



<タオル掛け>

2020年度は新型コロナウイルス感染症の感染防止のためタオルの使用ができなくなりましたが、寒くなってからはコートを掛けるのに使っています。掛けたりとったりしやすいので、自分でコートを探して着ようとする姿が見られています。「自分で…」という気持ちが芽生えてきた子どもたちにとって、使いやすいので習慣にもなっていくことでしょう。

3. その成果と評価

室内でも園庭でも今日はこれで遊びたいという遊具の選択肢が増えればと思い、いただいたものを、その時期の子どもたちの遊びや育ちにに応じて出してきました。そして、それぞれの子どもが遊びたいものを自分で選んでかかわり、試し、満足いくと次へと探索していく姿を大事に見守ってきました。遊具が遊びのイメージを持つ助けになっているように感じます。木製の野菜や果物などがあることで、ご馳走やお弁当などのイメージを持ち、線路があることで汽車が走る様子を思い浮かべていることでしょう。砂場の道具も、入れてみよう、掘ってみようなど遊びを助けています。そのことから、土や水、砂、草花や木の葉・木の実などの自然に触れるきっかけにもなっているようです。そして、一人の始めた遊びが他の子どもたちの興味を呼び起こし、遊びの広がりや他児とのかかわり、友だちとのやりとりへとつながっていったように思います。



4. 今後の課題と展望

このように、遊具(道具)を介して遊びが広がり、友だちとつながり、それぞれの子どもたちの成長が見られ嬉しいことです。0歳、1歳、2歳の子どものそれぞれの発達はもちろんですが、その時々の子どもたちの育ちや必要な経験は違ってきます。興味もそれぞれでしょう。開園して2年半余り、保育の質を高めていく過程にある私たちの園です。その年の、その時期の、その季節の子どもたちにとって、今どんな環境を用意すればいいのかを丁寧に見ながら、保育者同士で考え、学び合っていくことが必要だと感じています。

今回いただいた遊具を今後も有効に活用し、子ども一人ひとりに必要な環境を整えていきたいと思っています。

以上